

### 牛が拓いた農場

齋藤 以前、木村さんにこの齋藤牧場に来ていただいたのは、三年前でしたね。

木村 もう三年たつんですね。早いなあ。

齋藤さんのことは、それまでも岩手県の中洞さんからよく聞いていました。齋藤さんの牧場に学んで自分の牧場経営がうまくいった。北海道に行ったら、師匠の齋藤さんの牧場にぜひ顔を出して欲しい。

こちらに来てみて、なるほど中洞さんが齋藤さんを師匠と仰ぐ意味がよく分かりました。自然というものを実にうまく利用されているでしょう。この牧場は農業の原点じゃないか、酪農というのはこれが本来の姿じゃないかって私は思うんですよ。

齋藤 ここは七十畝あるけれども、傾斜が多くて、農地っていうよりもと山なんですよ。山でもこういう豊かな牧場になりますよってということな

この機械化の時代に牛を放し飼いにし、牛が採草地をつくり、採草地によって牛が育てられるという共存共生の関係をうまくつくっています。

いまこちらに牛は何頭いるんですか。齋藤 百二十頭です。みんなホルスタインですね。うちは農薬も除草剤も一切使っていないから、牛には安心して草を食べさせられるんです。余計な雑草は牛が全部食べてくれて、岩のあるところは岩のまま、皆きれいな景観に変わってね、造園業者でもできないようなことを山全体でしまつたんです。

だから、ここで私がつくつたものは何もありません。こういう環境は人間ではつくれない。草食動物の牛だからこういうふうにつくるんです。言ってみれば、ここは牛が拓いてくれた牧場なんです。それをうまく捉えて管理するのが人間なんです。

木村 私も、農薬や肥料を使わないりんご栽培に挑戦して、何度も失敗を繰り返してきたけれども、ある時山を見たら、自分の畑とまったく違うことに気づいたんです。土を掘って中を見ると、根の張り方とか、土の温度とか、全然違うわけ。だから失敗したんだなと分かったんです。それを山の姿に近

んです。

木村 山だから地面は傾斜しているし、大きな岩があちこちにありま

な投資をしても面積は半減するか、ひどければ三分の一以下になりますよ。しかも、この岩をどうするかというのが問題になる。いまの酪農というのは、そうやって機械を使っているんな無理

をしながらやっています。「らくのう」じゃなくて「くのう」なんです(笑)。だけど齋藤さんは、余計な手を掛けないで、自然のありのままの形でやっている。岩もそこにあつたままにして、

### ●対談 齋藤晶&木村秋則

便利さ、快適さを過度に追求し、自然からかけ離れた生活に浸り切っている現代人。しかし、環境問題は深刻化し、その生活は危機に瀕している。

自然の摂理に則り、従来の常識を破る農法を確立した齋藤晶氏、木村秋則氏に、各々の農法を確立するまでの「苦勞」を交えながら、人間が心身ともに健全な生活を取り戻すためにすべきことを語り合っていた。

# 自然の摂理に則って生きる

酪農家

## 齋藤晶

さいとう・あきら 昭和3年山形県生まれ。22年開拓農民として単身、北海道旭川市神居町に入植。笹と石だらけの山で開拓農業に行き詰まり、酪農に転向。牛と牧草と雑草の生態を生かした蹄耕法による自然流酪農を確立。平成11年度山崎記念農業賞受賞。著書に『牛が拓く牧場』『いのちの輝き感じるかい』がある。



りんご農家

## 木村秋則

きむら・あきのり 昭和24年青森県生まれ。高校卒業後、りんご農家として慣行栽培に従事するも、農薬の被害を避けるため無農薬・無肥料の有機栽培に転換。10年もの苦闘を経て不可能とされた農法を見事に成功させる。現在、自然栽培農法によるりんご米を生産販売する傍ら、その農法に賛同する生産者の指導で全国を奔走。著書に『自然栽培ひとすじ』がある。

づけていったら、何年も実らなかつたりんごが実つたし、野菜もできました。何かさ、人間は自然界から見たら、針の穴ほどの知識で、この自然をすべて知つたと錯覚を起こしているんじゃないかと思ひました。浅はかな知恵であれこれやろうとするから、うまくいかないんじゃないかと思うんです。

をずっと見ておつてね、自然の摂理に則つた感性で組み立て直さなきゃいけないの。だからこれまでは乳や肉をつくるのが畜産だったけど、これからは環境をつくる畜産になっていかなきゃいけないんです。環境をつくっているうちに乳や肉は付録として出てくる。そうすれば日本の山はみんな宝物に変わるんですよ。

### 海外の専門家が認めた酪農法

木村 酪農なんかとてもできないよ。うな山を、ここまでの牧場にされるには、大変な苦勞があつたでしょう。

齋藤 苦勞をしたというよりも、や

齋藤 自然の摂理に合つてなきやダメだということなんです。なんぼ高度な技術があつても、自然の摂理に帰らなければ結局は問題が起きます。実際、いまは農業どころか、地球までおかしなやつてきているわけですよ。畜産も、牛の草食動物としての本能

最初は共同経営で畑をつくつていたけれども、しばらくして個人経営に移行することになりましたね。その時、皆で起こした土地は満州から引き揚げた人たちに優先的に配分されてしまつて、独身が一番若かつた私に残されていたのは、山の一番奥の一畝も起こし